

平成26年度 さけます関係研究開発等推進会議報告書

会議責任者	北海道区水産研究所長
-------	------------

1 会議日時及び場所

日時：平成26年8月6日（月） 9:30～17:15

さけます関係研究開発等推進会議-研究部会 : 9:30～12:30

さけます関係研究開発等推進会議-成果普及部会 : 14:00～17:15

場所：ホテルライフオート札幌（札幌市中央区南10条西1丁目）

2 出席者所属機関及び人数

さけます関係研究開発等推進会議-研究部会 : 24機関 73名

さけます関係研究開発等推進会議-成果普及部会 : 67機関 209名

3 結果の概要

○さけます関係研究開発等推進会議 研究部会

議題等	結果の概要
1 各機関における研究開発の実施状況	<p>資料に基づき、各道県の試験研究機関および水産総合研究センターの平成26年度さけます関連調査研究計画の概要について紹介があり、情報交換が行われた。</p> <p>研究成果のトピックスとして、岩手県水産技術センターから「東日本大震災時に放流されたサケの3年魚回帰状況」、水産工学研究所から「岩手県山田湾におけるモニタリングシステム」が紹介され、質疑応答が行われた。</p> <p>各試験研究機関等が行った平成25年度の標識放流結果と平成26年度の標識放流計画について、北海道区水産研究所が取りまとめた資料が提供され情報共有がなされた。</p>
2 特別講演	<p>北海道大学大学院農学研究院環境資源学部門の荒木教授が「ふ化放流魚と野生魚の相互作用」と題する特別講演を行い、サケ科魚類においても継続的種苗放流が野生魚集団への遺伝的影響は避けられないこと、対応策として「繁殖成功率を下げない種苗づくり」と「ふ化放流以外の資源保全確保」への研究開発が今後必要との問題提起があった。</p>
3 さけます類の来遊状況についての意見交換	<p>平成25年度のサケ来遊の特徴について各機関から意見が出され、若干の討議が行われた。5年魚の増加は成長の遅れを反映したとの見解で一致。</p>

4 その他

北海道区水産研究所から、来年5月に神戸で開催されるNPAFCシンポジウムの紹介が行われるとともに、各研究機関が積極的に参加すること要請された。

北海道区水産研究所が、各道県に対して「さけます情報」の従来どおりの提供とHP掲載について改めて許諾を求め、了承された。

外部資金の獲得を目指した研究案について、昨年度各機関からの要望を受けて提示した「サケ自然再生産に関するプロジェクト」には積極的な参加を示した機関が少なかったため、具体的な応募を見送ったことが報告された。

サクラマス分科会の結果概要として、サクラマスの試験研究活性化のため、環境研究総合推進費（環境省）に「遺伝的攪乱が水産重要魚種サクラマスの生態的特性及び河川生態系へもたらす波及効果（仮題）」として応募する予定であること、サクラマスの資源評価モニタリング体制を充実させるため、共通のデータ収集フォーマットと調査マニュアルを作成すること等が報告された。

○さけます関係研究開発等推進会議 成果普及部会

議題等	結果の概要
<p>1 成果情報（地域特性を配慮した増殖事業の展開）</p>	<p>(1)サケの地域特性 北海道区水産研究所ふ化放流技術グループ伴グループ長から、サケは地域によって1) 遺伝的特性、2) 来遊数、3) 来遊時期、4) 採卵時期、5) 放流適水温が異なることが示され、それぞれの地域に適応した特性についての理解を深め、ふ化放流現場に活かすことが効果的な増殖事業の展開につながるの見解が示された。</p> <p>(2)北海道各地における時期別の放流試験結果 北海道区水産研究所ふ化放流技術グループ中島主任技術員から、1) オホーツク海区斜里川、2) えりも以西海区静内川、3) 日本海区千歳川での耳石標識放流試験の結果に基づき、サケ稚魚の生残に関わる要因は地域によって異なる可能性があり、各地域の特徴に合わせた放流手法を検討する必要があるとの提言がなされた。</p> <p>(3)本州日本海沿岸におけるサケ放流適期の検討 日本海区水産研究所さけます調査普及グループ飯田研究員から、放流時期別に異なる耳石温度標識を施された放流群の回帰状況について、3月中旬放流群の回帰率がその前後の放流群よりも高かったことが報告された。このことについて、餌生物量の多寡や対馬暖流が影響しているとの推論が示された。</p>

<p>2 情報提供（耳石温度標識魚の再捕報告と北太平洋におけるサケ資源の現状と来遊見込みに関する情報提供）</p>	<p>(4) 岩手県におけるサケふ化放流計画見直しの試みについて 岩手県水産技術センター漁業資源部の小川上席専門研究員から、1) 岩手県のサケ回帰尾数と稚魚放流数、2) 過去の種苗生産計画見直しの事例紹介、3) 現在提案している新たな見直し、4) 直面する課題について報告された。</p> <p>(1) オホーツク海における日本系耳石標識サケ幼魚の再捕報告 北海道区水産研究所繁殖保全グループの富田技術員から、ロシアの太平洋科学調査・漁業センターによる「2012年オホーツク海における降河後回遊期の人工ふ化カラフトマスとサケ稚魚の割合」に掲載されたサケとカラフトマス幼魚に関する情報が紹介された。</p> <p>(2) 北太平洋におけるサケ資源の現況と来遊見込み 北海道区水産研究所資源評価グループの斎藤グループ長から、1) 北太平洋のサケマス資源、2) ベーリング海のモニタリング調査、3) 平成25年度のサケ漁獲状況、4) 平成26年度のサケ来遊見込みが紹介された。 特に、今年度のサケ来遊数は前年を下回る可能性があり、地域によっては沿岸漁獲および河川捕獲が低迷することも想定されるため、関係機関の連絡体制を整備し、地場資源による種卵確保に向けての対応を協議するよう注意喚起がなされた。</p>
<p>3 本推進会議及び北水研業務に対する要望及び意見交換</p>	<p>本推進会議及び北水研業務について事前及び当日会場で提出された要望及び意見はなかった。</p>